

『臥龍梅』 蔵便り

平成二十一年五月



拝啓 いよいよ新緑の候となりました。皆様、如何お過ごしでしょうか。

まず、蔵のご報告から始めます。3月30日に甑だおしを済ませたことは先月の蔵便りで書きましたが、長期低温醗酵の吟醸仕込みを中心とする造りのため、どうしてもその後の醗管理に時間がかかります。結局、全商品を上槽、火入れして菅原杜氏以下蔵人が郷里の岩手に帰ったのは4月29日でした。昨年の10月1日の大安吉日に蔵入りしましたので、ちょうど7ヶ月になり、故郷で家族と過ごす月日より長くなってしまいました。蔵人の皆さん、また、留守宅のご家族の皆さん、本当に長い間ご苦勞様でした。

さて、今年も恒例の春の純米酒フェスティバルに参加してまいりました。4月12日の日曜日、場所は目白の椿山荘です。最初に参加した年は確か1升壺が7,8本空いたと記憶しておりますが、今回は何と22本！それも予定の時刻より大分前にすっからかんになってしまいました。臥龍梅の味と香りを気に入ってくださるお客様が着実に増えている証拠であり、わが意を強くいたしました。これも皆様のご支持の賜物と改めて感謝申し上げます。

酒の会といえば、5月10日(日)、北斗トピアで開催予定の「臥龍梅 新酒を愉しむ会」の入場券は、めでたく完売いたしました。初めての試みで不安もあったのですが、予想以上に好評で参加希望者が多かったため、当初予定より大分席数を増やして対応してまいりました。それでも、もはや限界の状況となったため、途中からやむなくお断りすることになりました。お申し込みいただきながら入場券を入手できなかった皆様、この場を借りてお詫び申し上げます。来年以降も恒例の行事としていくつもりですので、またの機会によりしく願いたします。

ところで、最近蔵見学のご希望を多々寄せられます。当社では、蔵人には造りに専心させて余計な気を使わせたくないこと、小売販売は小売酒販店様にお任せして蔵にも本社にも店を構えておらず、観光蔵とは正反対の経営方針であることなどから、基本的にお断りしております。それでもあまりにご希望が多いため、何かお応えできないかと次の企画を考えました。毎年10月の第3金曜日に地元の同業他社3社と共済で「駿河路酒メッセ」というイベントを開催しております。(着席指定制、5,000円) この会の入場券をご購入いただいた方に限ってその翌日、当社の蔵にご招待しようというものです。日頃のご愛顧にお応えする、1年に1度だけの催しです。詳細が決まり次第ご案内いたします。



今月は、長らくお待たせしておりました**山田錦 40%精米の純米大吟醸無ろ過原酒**と**山田錦 50%の大吟醸 50 瑠璃壺**をご案内いたします。どちらも素晴らしい出来映えですので、是非ともお試し下さい。

季節の変わり目のことゆえ、おからだには十分お気をつけ下さい。

平成 21 年 5 月 吉日

敬具
鈴木克昌